

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0495200057
法人名	医療法人 一秀会
事業所名	グループホーム 堤通り
所在地 (電話番号)	宮城県栗原市若柳字川南堤通20 (電 話) 0228-32-7130

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 3月14日

## 【情報提供票より】(20年 2月26日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 12 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	人

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有( 円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

## (4)利用者の概要( 2月26日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	58 歳	最高	91 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	栗原市立若柳病院 沢辺歯科クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営主体は医療法人一秀会で、栗原市で老人保健施設ジュスタ等を運営している。ホームは新興住宅地に平成19年4月開設された。近隣に迫桜高校、大型スーパー等があり、県道沿いの利便性の良い立地である。デイ等10年の経験と専門知識を有する管理者と看護師資格を持つ計画作成担当者が先頭に立って意欲的な発想と実行力で運営しており、生活状況、介護状況、職員の気付きを詳細に記録し、家族に毎月送付し、介護計画の作成、見直しにも活かそうとしている。開設後1年未満であることから、地域の一員としてのつきあいがまだ充分といえないが、中学生の福祉体験受入れ、高校生の花壇整備の受入れ、ウッドデッキを活用したバーベキュー大会への参加呼かけ、散歩時挨拶等の努力で地域での理解と協力が得られてきている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年4月開設のため、今回が初めての外部評価になる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者とユニット責任者が分担して職員個人毎に話し合いを行い、作り上げている。その結果を職員全員が参加した内部研修会で報告と討議を行い、職員アンケートを行い要望が多い項目から、具体的な改善に取り組もうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族で出席できる方全員、地区民生委員長、地域包括支援センター職員の方を構成メンバーとして、19年度は4ヶ月周期で3回開催し、来年度は回数を増やしたいとしている。ホーム活動状況の報告、転倒、ずりおち等の事故件数状況と再発防止対策の説明及びご家族や民生委員の方からの意見、要望の聞き取り、意見交換等を双方向的に行なっており、サービスの質の向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は設けていないが、運営推進会議には出席できる家族の方全員が参加できるようにしており、その中で意見、要望等をだして貰えるようにしている。意見箱も設置しており、言い易い環境作りを行なっている。重要事項説明書に苦情受付行政機関の連絡先を明示しており、今後第三者委員の選定も進めるとしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設前に約60名の地域住民の方の参加を得て説明会を開催している。夏祭り、どんと祭等の地域行事には入居者も参加している。中学生の福祉体験受入れ、迫桜高校生の花壇整備ボランティアの受入れやバーベキュー等ホーム行事への参加呼掛けを近隣スーパーで行なう等、地域との交流に努めており、今後町内会への加入を進めたいとしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営方針を基本に、昨年11月に全ての職員が参加したブレインストーミングで意見を出し合い、「ゆっくりとした生活」「楽しい生活」「自分らしい生活」の三つの理念をつくり上げ、各棟の入口に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記三つの理念を更に具体的に取り組む活動項目(例:ゆっくりとした時間の流れの中での生活等)を設定し、ケアプランの作成、見直し時をはじめとして、日々その実践に全ての職員が取り組んでおり、定着化させたいとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設前に約60名の地域住民の参加を得て説明会を開催している。夏祭り、どんと祭等の地域行事には入居者も参加している。中学生の福祉体験、迫桜高校生の花壇整備ボランティアの受入れ、バーベキュー等ホーム行事への参加呼掛けをスーパーで行なう等、地域との交流に努めており、今後町内会への加入を進めたいとしている	○	19年4月のホーム開設から間もない事もあり、近隣の方やボランティアの来訪がまだ少ないので、町内会への加入を行い、地域活動への参加を進めると共に、広報誌等も活用しながらホーム行事への参加呼掛けを継続して粘り強く行ない、地域とのつきあいを深めて頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者とユニット責任者が分担して職員個人毎に全員と話し合い、作り上げている。その結果をすべての職員が参加した内部研修会で報告と討議を行って取り組んでいきたい項目を設定し、職員アンケートで要望が多い項目から、具体的な改善に取り組もうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族で出席できる方全員、地区民生委員長、地域包括支援センター職員の方を構成メンバーとして、19年度は4ヶ月周期で3回開催し、来年度は回数を増やしたいとしている。活動報告、事故状況と再発防止対策の説明、ご家族等からの要望聞きとり、意見交換等を双方向で行なっており、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の保健福祉課担当者とは、他地域からの利用者受け入れの折衝や医療関係での介護保険法関連の相談等多方面で行き来する機会を作り、ホームでできるサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者個人毎に、時刻と記録記入者を併記した日々の生活状況、外出状況、身体状況等の詳細な介護記録を読み易いようワープロで作成し、預かり金出納帳、請求書と一緒に家族へ毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、運営推進会議には出席できる家族の方全員が参加できるようにしており、その中で意見、要望等をだして貰えるようにしている。意見箱も設置しており、言い易い環境作りに努めている。重要事項説明書に苦情受付行政機関の連絡先を明示しており、今後第三者委員の選定も進めるとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	体調不良等により職員異動が2回ほどあったが、管理者と担当者が事前に異動可能かどうかの検討、入居者へのダメージをふせぐ為の方策等を話し合い、入居者への挨拶、家族への説明を行ない、ダメージはなかった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	病院で新人看護師の教育・指導に採用しているプリセプターシップを導入し、先輩職員が新人職員をマンツーマン方式で育成する取り組みを始めている。又、資格取得研修参加を勤務扱いとしており、取得時には手当て等の配慮がある。今後、内部研修を充実させたいとして、希望研修項目を集約中である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入している。ブロック研修会には、管理者並びに職員が参加し、ネットワーク作りを図ると共に、研修、交流、見学等により、サービスの質の向上に資する情報取得に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用からそのまま入居する場合もあるが、利用開始前に管理者、計画作成担当者が訪問し、利用者の状態や意向、家族の意向をアセスメントシートを使用し把握している。入居時は、安心して過ごせるよう、家庭の雰囲気継続できる声かけや家族の立場に立てるような親身な対応を意識して心がけるようにして接している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が日々ゆったりとした生活を過ごせるよう働きかけに努めると共に笑いが一番大事として、共に笑える雰囲気づくりを心がけている。又、料理の味付け、花作り等を一緒に行い、入居者の経験や技、思い出などを引き出したり、地域の方言を学びながら、信頼関係の構築を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の過ごし方や外出等行事の際の行動、表情等を観察し、言葉に耳を傾け、希望、思いの把握に努めている。カンファレンス時、その思いを職員からプレーンティングでだしあって、共有化を図っている。把握が難しい場合にも、カンファレンスで気付きを出し合い、本人の立場に立つての意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全ての職員が参加する月1回のカンファレンスでは、介護記録や日々のケアで見られる気づき等からの意見、アイデアをプレーンティングで出し合い、介護計画の作成に反映させている。介護計画は、家族に説明し、同意を得ている。認知症の程度に応じて、精神科医への受診試みや一般病院との連携を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	東京センター方式からピックアップした項目と食事、入浴等での変化が見られる項目とをプラスしたアセスメントシートを使用し、毎月1回当たり2名の定期カンファレンスを行なっている。ホーム開設1年未満であること等から、計画見直しが現状6ヶ月周期であり、又、変化が見られる入居者の計画見直しまでには至っていないとしている。	○	計画見直しを最低3か月に1回実施する、計画書様式も見直しする、更に定期見直し以前に変化が見られる入居者に対してのカンファレンスを随時実施する、としているので、着実に、しかも早急にこれらを実施して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望、状況に応じて通院、理美容送迎や買い物支援を行なっている。開設間もない事もあり、近隣高齢者のショートステイやデイサービスの受入れは今後の課題である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関への受診同行を行なっており、診断状況が聞ける良好な関係を築いている。受診結果は、家族への報告、本人への説明を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向け、「住み慣れた街で、その人らしく最後まで」のホーム理念実現のため、『利用者重症化における対応に関わる指針』を作成し、利用契約時に利用者、家族等に説明し、同意・協力を得ている。医療連携も図っているが、職員間での意識付け、情報共有策や今後の変化に備えての検討等は準備中である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	起床、排泄、入浴などの際に、各入居者にあつた目立たず、さりげない声がけを行なっている。入居者との会話では否定せず、話を最後まで親身になって聞く姿勢を大事にするよう、職員同士がお互い注意しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり声がけするが、入居者が日々異なる状態になることを念頭に、本人のその日その日のペースや気持ちに合わせて過ごして貰えるよう努めている。また、本人が出来ないところへのさりげない支援を心がけるよう、職員を指導している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ食事を同じ食卓で食べ、季節の話題を話しかけ楽しさを引き出していた。盛り付け、片付け、洗い等入居者が職員と声を掛け合いながら楽しそうに作業していた。嗜好調査を行っており、誕生会には好物を提供するよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のペースの中からおのずと順番や時間帯が決まっているようであり、その日の希望や状態を確認し、足湯やシャワー浴も組合せながら入浴が楽しめるようにしている。ゆず湯を実施したことがあり、好評であった。楽しめて、季節も感じられるようにと、肌の状態にも配慮しながら菖蒲湯や入浴剤使用を今後検討したいとしている		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	開設当初は役割の取り合いがあったが、入居者の生活歴、身体状況等の配慮、誘導で、食事準備、洗い、洗濯物たたみ等役割が定着してきている。干し柿作り、クリスマスリース作り、餅つき、切干大根作り等で季節感と得意技を引き出し、楽しめるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や希望に応じて買い物、思い出の場所へのドライブ、カラオケ、外食等の機会を出来るだけ設けており、そこでしか見られない笑顔、表情が見れる貴重な機会と捉えている。又、紅葉見学、白鳥見学等への家族同行参加を呼びかけている。ホーム近辺に散歩コースがあり、近隣の方との挨拶、声かけが徐々に増えてきてい		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関には鍵は掛けていない。日々、入居者がどこでどの様に過ごしているか、一定時間毎の観察状況をチャートに記録し、行動パターンを把握し、職員同士連携しながら見守りを行ない、その中で、転倒、創傷等の統計データをとり、事故カフレンスを行い、再発防止に努めており、運営推進会議にも報告している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上の避難訓練実施を予定していたが、19年度は消防署の指導、協力を得て、総合訓練を1回実施した。地域住民の方への説明と協力依頼が不十分であったとしている。	○	年2回以上(1回は夜間又は夜間想定訓練)の避難訓練を計画しているので、消防署から指導された項目の改善を図りながら計画通りの訓練を実施して頂きたい。又、地域の方への協力が得られるよう運営推進会議での協力依頼や日常の地域とのつきあいを深め、協力体制作りを進めて頂きたい。更に非常用食糧、備品の準備の見直しをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個別に記録されている。体重計測は月1回、血圧等のバイタル測定は毎日実施、記録している。食事メニューは各ユニットごとに栄養が偏らないよう、職員間で話し合い、メニューを作成しているが、栄養士による栄養的観点からの指導がなされていないので、今後の検討課題としている。	○	栄養の専門的観点からの指導、助言が不足しているので、行政機関への協力支援の働きかけを行い、保健所等の管理栄養士の指導、助言を定期的(例:1~3ヶ月周期)に行なって頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側に面したリビングは明るい。対面式キッチンと、テーブルが六角形に配置され、みんなの顔を見ながらの食事や会話ができ、くつろげて居心地の良さを感じた。両ユニットをつなぐウッドデッキは、テーブルが何卓も置けるほど非常に広く、バーベキュー行事にも使用されており、ご近所の方が気軽に立ち寄り、一休みができる構造であり開放的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室洋間(6畳)である。入居者それぞれの好みのもや写真、そして仏壇が持ち込まれており、その人らしい居室づくりとなっている。入居者の中には馴染みの物がない方もおり、家族とも相談しながら、工夫していきたいとしている。		